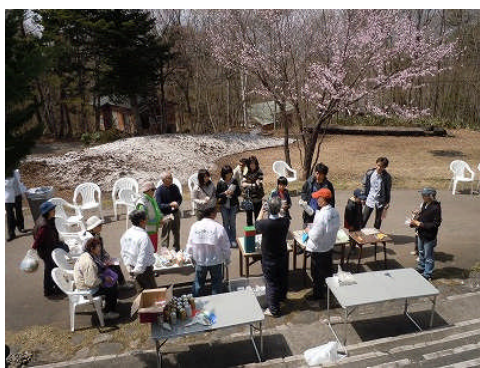


サバイバルご飯の炊飯体験会・東日本大震災支援バザー・放射線の勉強会

～今年の大連休、クラブ有志が神山ロッヂで開催～

野尻湖グリーンクラブの今年のゴールデンウィーク期間の各行事は、東日本大震災の影響で中止となりましたが、連休中日の5月4日神山ロッヂでは会員有志らによる「サバイバル体験会」や「バザー」などが開かれました。



サクラは満開だが会場には残雪

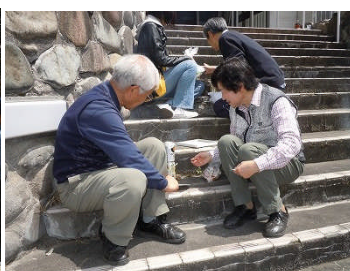


熱心に説明を受ける参加者たち

ヤマザクラが満開のこの日、好天に恵まれた神山ロッヂ前広場には来荘中の会員や子供たちなど約30人が集まりました。体験会を呼び掛けたのは松風台北の伊藤さんや同南の今井さんら有志数名。集まった人たちはさっそく伊藤さんらからご飯の炊き方などの説明を受けていました。このサバイバル炊飯は缶ビールの空き缶2コと燃料の牛乳パック3箱を使ってお米を炊こうというもので、説明を受けた参加者たちはさっそく空き缶でミニコンロを作ったり、牛乳パックを細かく切ったりした後30分ほどかけて120グラムのご飯を炊き上げていました。



手を切らないように



火加減がむずかしい?



2段重ね、倒れないように...



意外や意外、ふつくとおいしく炊けました



試食会では差し入れのタケノコ汁や漬物などいただきました



またロッチ前では、午前 10 時から午後3時まで同クラブの有志による東日本大震災支援バザーが行われたほか、ロッチ 2 階の会場では「放射線を知ろう、放射線障害をさけるために」と題した勉強会が開かれ、杏林大学医学部講師で松風台南の井原さんが講演しました。



東日本大震災支援バザー、若い人たちも積極的に寄付



「放射線を正しく知ろう」という勉強会、講師も聴衆も熱が入る

勉強会で井原さんは、放射線の種類や被ばくを防ぐ三原則、放射線の利用例などのほか、ビッグバンから星の話、さらにオーロラなどの天然現象まで幅広く説明、会場を埋めた参加者たちは熱心にメモを取っていました。この勉強会には、クラブ会員のほか信濃町在住の方も数名参加、東京電力福島第一原子力発電所の重大事故の最中だけに放射線への関心の高さを見せていました。

(美山郷 安藤)